

## 重症筋無力症患者に対するヨード造影剤の使用について

2015年7月21日

日本医学放射線学会造影剤安全性委員会

日本神経学会監修による「重症筋無力症ガイドライン 2014」<sup>1)</sup>が刊行され、この中で重症筋無力症（以下、MG）の増悪因子としてヨード造影剤が MG クリーゼの原因となる可能性が挙げられており、神経内科医師等から MG 患者に対するヨード造影剤の使用について相談を受けるケースが報告されています。

このガイドラインは Frank<sup>2)</sup>および Eliashiv<sup>3)</sup>らの報告を参考文献として記載されていますが、これらはいずれも **イオン性高浸透圧ヨード造影剤**を使用した報告であり、現在本邦においては **イオン性高浸透圧ヨード造影剤**の経静脈的投与に対する適応はありません。

一方、MG の増悪と **非イオン性ヨード造影剤**の関連については、Somashekar<sup>4)</sup>および Mehrizi<sup>5)</sup>が報告しています。

Somashekar らは 1995 年 1 月 1 日～2011 年 12 月 31 日に臨床的に MG と診断された 267 例（造影剤使用 CT 群 112 例、非使用 CT 群 155 例）において、非使用 CT 群と比較して、造影剤使用 CT 群では CT 後 1 日以内に疾患関連症状の悪化をより多く認めたとし、これらの急性悪化の症状は「主に呼吸器系」であったと報告しています。

一方、Mehrizi らは 2001 年 11 月から 2012 年 6 月までに実施された MG 患者の画像検査 354 件を解析し、経静脈的造影 CT 検査群、非造影 CT 検査群、造影 MRI 検査群、及び非造影 MRI 検査群のいずれにおいても MG を悪化させなかったと報告しています。

従ってこれらの報告はそれぞれ相反する結果であることから、**非イオン性ヨード造影剤と MG の増悪との因果関係はまだ明らかではない**と考えられます。しかしながら Somashekar らにより呼吸器症状の増悪が報告されていることを勘案し、MG 患者に非イオン性ヨード造影剤を投与して CT 検査を行う場合は、呼吸器症状が増悪する可能性があることも念頭におき慎重に施行することが望ましいと考えます。

- 1) 重症筋無力症ガイドライン 2014. 日本神経学会（監修）. 南江堂
- 2) Jeffrey H. Frank, et al. Iodinated contrast agents in myasthenia gravis. *Neurology*. 1987; 37: 1400-2
- 3) S. Eliashiv, et al. Aggravation of human and experimental myasthenia gravis by contrast media. *Neurology*. 1990; 40: 1623-5
- 4) Deepak K. Somashekar, et al. Effect of intravenous low-osmolality iodinated contrast media on patients with myasthenia gravis. *Radiology*. 2013; 267(3); 727-34
- 5) M. Mehrizi, et al. Complications of radiologic contrast in patients with myasthenia gravis. *Muscle Nerve* 2014; 50: 443-4